

正義・勇気の心を育てる道徳プログラムの開発

- 「ぐんまの子どものためのルールブック50」を活用して -

邑楽郡大泉町立東小学校 恩田 弘子

はじめに

人間は、自分の属する集団がよりよく伸びていこうとする前向きな状態の時、つまり「正義が通る」環境が存在するときに、個人の力もよりよく伸びていくものだと考える。私たち教師は、「正義の通る学級・学年に」を常に念頭に置き、規律ある学級経営・学年経営に当たるべきだと考えている。本研究は、学年の共通理解のもとに学年道徳授業も一部取り入れ、小学校3年生を対象に実践したものである。

主題設定の理由

1 現代の社会問題及び教育課題から

近年、児童生徒による重大な問題行動は後を絶たない。文部科学省は、平成17年にまとめた「新・児童生徒問題行動対策重点プログラム」の中の、「学校内のルールを遵守させるなど、学校内規律の維持と、これを通じた児童生徒の規範意識の醸成という観点」や、「学校内の規律維持を指向する『ゼロ・トレランス（毅然とした対応）方式』のような生徒指導の取組」という記述を通して、今まで以上に学校内における「規範」「規律」の醸成が重要であると提示している。

連日取りざたされている「いじめ」の問題も、その原因は規律の精神の希薄さや正義・勇気の心の不足にあると考えられる。規律のない中で生活していることにより、子供たちの心は乱れ、その乱れが「いじめ」という形で現れる。そして、正義・勇気の心が足りないために、いじめを見ても傍観者となり助けられなかったり、便乗していじめに荷担するという残念な状況になっている。

このことを受け、生徒指導という枠組みの中だけで規範意識・規律の遵守を訴えるのではなく、道徳の時間においても今まで以上にこのことを重視し、指導していく必要があると考える。

2 児童(小学3年生)の実態から

中学年の児童は、心身の成長とともに運動能力や知的な能力が大きく発達する。それに合わせて社会的な活動範囲も広がっていく。そして、自分の行為の善悪についてはある程度反省しながら把握できるようになる。一方で、この時期は活動性と興味の拡大から、回りの人のことを考えずに自己中心的な行動をしてしまう傾向がある。それが、ギャングエイジと呼ばれる理由である。また、善悪の判断に基づく行動形式ができるかどうかの分かれ目となる重要な時期でもある。だからこそ、今この時期に正義・勇気の心や規律の精神を常に意識をさせることが重要であると考えられる。

3 自分の過去の研究の課題から

自分のこれまでの研究の成果から、教科の学習と同様に、大きなねらいを達成するために、心に響く力のある資料を使い、単元を組んで道徳の授業を行うことが効果的であると考えている。この考えに基づき、「思いやりの心を伝え合う」道徳プログラムや、「頑張る気持ち育てる」道徳プログラム等を研究・開発してきた。さらに多くの学年、多くの内容項目について効果的な道徳プログラムを開発して、子供の心を育てていくことが急務であると感じている。

以上のことから、小学生の時にきっちりと規律の精神を養い、正義・勇気の心を意図的・計画的に積み重ねて育てていくことが、今の教育の重要課題であると考え、本主題を設定した。

研究の内容と方法

1 「正義・勇気の心」とは

「正義・勇気の心」とは、規範意識を持ち、「ルールブック50」に載っているような「当たり前のこと」を「当たり前で堂々とできる」心であるとする。「正義・勇気の心」を持った子供の具体的な姿として、以下のような行動がとれる子供と考える。

いいことはいいと褒め合える。(ルール21と関連)

悪いことは悪いと堂々と注意し合える。(ルール41と関連)

あいさつや返事を大きな声でできる。(ルール18・39と関連)

間違いをおそれずに自分の考えを堂々と発表ができる。(ルール45と関連)

人の悪口は言わない。(ルール23と関連)

掃除をきちんとする。整理整頓に努める。(ルール11・17・27と関連)

前向きに頑張ることができる。(ルール50と関連)

2 「道徳プログラム」とは

子供の心にひとつの道徳的価値を育てるには、意図的・計画的な指導が不可欠である。教科の学習と同様に、大きなねらいを達成するために道徳の時間を有機的に組み合わせて単元を構想し、単元のねらいに向かってステップを踏んで指導を積み重ね学習していくこと、また、各時間の導入に前時の学習を想起して復習することなどが、これからの道徳教育に必要な要件であるとする。本研究では、このような道徳学習の計画を「道徳プログラム」と呼ぶこととする。

3 「正義・勇気の心」を育てる道徳プログラムの構想

正義・勇気の心や規律の精神は、内容項目の1「自分自身のこと」の領域に当たる。中学年の「心のノート」の「1の領域」のページのとびらに、「かがやく自分になろう」というテーマが設けてある。これを受け、3年生向けのこの道徳プログラムのテーマを「かがやく自分になろう」として、以下の表のような指導計画を立てた。

時	主題	内容項目 (関連項目)	学習のねらい	「ルールブック50」の 活用する番号・項目	「資料名」 出典
1	自分でやる大切さ	1-(1) 自立・節制 1-(2) 思慮・反省	自分の力のできることは、自分でやろうとする意欲を高める。	11-きれいにあとかたづけをしよう 17-机の上に余分な物は置かない	「やっぱりいい気持ち」 日本標準 みんなで考える道徳
2	ねばり強くやり遂げる	1-(3) 勤勉・努力 1-(4) 正義・勇気	目標の実現のために努力を積み重ね、目標達成に努めようとする意欲を育てる。	50-勉強も運動も最後までやり抜こう	「はっきり言えるようになった」 光村図書 きみが一番光るとき
3	勇気をもって	1-(4) 正義・勇気 4-(1) 規則尊重・公德心	みんなと気持ちよく過ごすために、正しいことは勇気を持って行おうとする意欲を高める。	26-集団で行動をするときははじめをつけてきびきびと行動しよう 48-約束やきまりを守ろう	「思い切って言ったけど」 光村図書 きみが一番光るとき
4	正しい行いをしよう	4-(1) 規則尊重・公德心 1-(4) 正義・勇気	万引きは犯罪であることを知り、絶対にしてはいけないという心情を育てる。	44-うそをつかずに正直でいよう 14-お小遣いを大切に使う	「みんなで考えよう正しい行い」 群馬県警本部・群馬県教育委員会作成資料をもとに、自作
5	意地悪は許さない	2-(2) 思いやり 1-(4) 正義・勇気	小さな意地悪がもとで、人が死ぬこともあることを知り、差別はしない、意地悪な行動は絶対とらないという心情を育てる。	23-友達の悪口は言わない 25-だれも仲間はずれにしない 43-困ったときは相談しよう	「わたしのいもうと」 偕成社絵本 松谷みよ子 作
6	命を大切に	3-(2) 生命尊重 1-(3) 勤勉・努力	生きていることの意味を考え、自分と他の人の命を大切に一生懸命生きていこうという心情を育てる。		「電池が切れるまで」 日本標準 みんなで考える道徳 (写真集「1945 JAPAN」)

また、図1は本道徳プログラムの構想図である。



4 「ぐんまのこどものためのルールブック50」の活用

正義や規律の精神を身につけるためには、「当たり前なことを当たり前にする」ことが大切である。「ぐんまのこどものためのルールブック 50」は、「当たり前大切なこと」について、指導者にも気付きを促すとともに、子供に親しみやすい表現と内容で構成されているため、授業や日常生活指導で活用できる大変良い資料であると考えられる。道徳の時間、朝・帰りの会、給食の時間、清掃の時間、特別活動、総合的な学習の時間等、学校の教育活動全体で有効に活用していくことができる。さらに道徳プログラム終了後も継続して活用していくことにより、学年・学級の正義・規律を大切にす風土を守り、育て、発展させていきたい。具体的な活用は以下の表の通りである。

道徳の時間における活用	道徳プログラム中の活用例は指導計画の表及び構想図(図1)の通り
朝・帰りの会における活用	・1分間スピーチで好きなルールとその理由を発表する ・朝、今日のめやすとするルールを1つ決めて、帰りの会で達成度を確認する。
給食の時間における活用	ルール2-朝食をしっかりとろう ルール3-感謝して「いただきます」「ごちそうさま」を言おう ルール4-口の中に食べ物を入れたまま話をしない ルール5-食べ物を粗末にしない
総合的な学習の時間における活用	ルール13-電話をする時は、自分の名前を言って、相手確かめてから手短かに用件を話そう
家庭の理解・協力を得るための活用	毎日の音読の宿題として、「ルールブックの 番～番を音読する」という課題を出す。
ルールブックの保管方法	学校でも家でもいつでも必要なときに見られるように、連絡袋(おたより袋)に常に入れて携帯させておく。

5 日常の学級経営

子供が本来の力を十分に発揮するには、属する集団が正義の通る集団であると同時に、「温かい雰囲気のある集団」であることが必須である。一人一人に思いやりの心を育てていくことが何よりも大切であることは言うまでもないことである。日常の学級経営において、温かい人間関係を育む指導の工夫・努力をした上に、正義の心の育成は成り立つと考える。具体的には以下のような活動を年間通して継続していく。

誕生日を大切にす活動	【3の1より愛をこめて】誕生日に誕生会を行い、学級全員の寄せ書きをした色紙をプレゼントし、一人一人が大切な存在であることを感じさせる。
頑張った友達を認め合う活動	【今日のホカホカ】毎日、帰りの会で、友達の頑張った行動・思いやりのある行動で心が温くなった出来事を発表しあう。
友達のいいところを伝え合う活動	【班の仲間のキラキラ光線】席替えのたびに、同じ班だった仲間にいいところを探して書いた手紙を交換する。
学級目標を意識させるための活動	【3年1組みんなの願い】「心がきれい助け合える みんなホカホカ3年1組・・・勉強・運動なんでもガンガン頑張る3年1組」という子供たちが考えた「願い」を、毎日帰りの会で唱和する。
ルールブックより	「思いやり」と関連するルール・・・2・1・22・31・33・40を、折りに触れ扱う。

授業の実際

1 第4時「正しい行いをしよう」(万引き防止)の指導の流れと考察

(1) 主題名 「正しい行いをしよう」(万引き防止) 内容項目 4-(1)規則尊重・公德心
関連項目 1-(4)正義・勇気

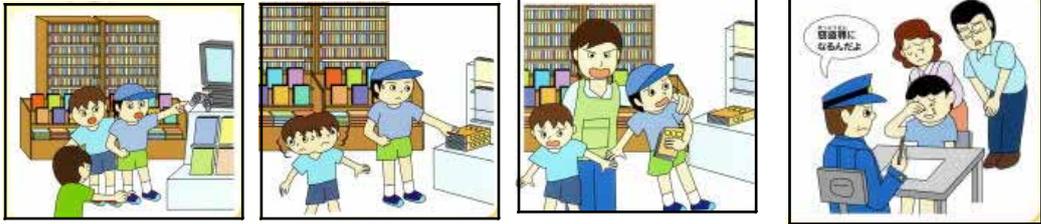
(2) 資料 群馬県警本部・群馬県教育委員会作成資料「みんなで考えよう正しい行い」
をもとに作成した自作資料

(3) ねらい 万引きは重大な犯罪であり絶対にしてはいけないということを知り、悪いことは断る
勇気を持ち、正しい行いをしていこうとする心情を育てる。

(4) 準備 掲示用場面絵(1) ワークシート「心」のハートマーク
役割演技(2) 用小道具(青いぼうし・カードセット・名札) 名前のマグネット
ルールブック50 心のノート

1) 場面絵
(出典：群馬県警本部・群馬県教育委員会作成資料「みんなで考えよう正しい行い」)

場面絵1 場面絵2 場面絵3の(1) 場面絵3の(2)



2) 役割演技について(自作資料)

役割演技 その1 万引きに誘われ迷うところまで

T2: ねえ、ねえ、「けんすけくん」ムシキングカードのセットが特別に安く売ってるよ。限定販売だって、欲しいな。
T3: 限定販売か。僕もほしいな。でも、今日はお金持ってないんだ。
T2: 僕もお金がないんだ。しょうがないね。今日は買えないね。
T3: でも、明日じゃもう売り切れてるかもしれないよ。ねえ、ねえ、「くにおくん」、今ならお店の人だれもいないからさあ・・・。万引きしちゃおうぜ。
T2: えっ。
T3: 大丈夫だよ。この前さあ、友達の「ひろこちゃん」と来たとき、「ひろこちゃん」もやってたんだ。
T2: えー、でも・・・。
T3: 「くにおくん」は弱虫だなあ。それなら、今度から仲間はずれだよ、くにおくんとは遊ばないよあ。
T2: ええっ・・・。
T3: くにおくん、このカード欲しいんでしょ。
T2: うん・・・。

役割演技 その2 迷うところから、万引きしてしまうところまでまで

T3: くにおくん、このカード欲しいんでしょ。
T2: うん・・・、わかったよあ。
T3: じゃあ、ぼくが見張ってるからね。(見張る)
T2: (しぶしぶ承知して、万引きしてしまう。ポケットにカードセットを入れる)

役割演技 その3 万引きしてしまうところから、お店の人に見つかるまで

T2: (しぶしぶ承知して、万引きしてしまう。ポケットにカードセットを入れる)(立ち去ろうとする)
T1: こらー!!何やってるんだ!!
T2: (見つかったあと、警察につれていかれ、どうなったか、事実のみを語る)
ぼくはこのあと警察に連れていかれて、厳しく怒られました。・・・お父さん、お母さんも呼び出されて・・・お母さんは泣いていました。・・・

(5) 指導の流れ

指導形態は、T1(担任)T2(少年警察補導員)T3(県さくらプラン補助教員)によるTTである。

主な発問・指示	子供たちの反応	・支援したこと(表示なしはT1) 考察												
<p>今までの道徳の勉強でどんな「心」が見つかったでしょう。 今日、考えたいことは「友達に万引きをさそわれたり、お店で欲しいものがあつたりしたとき、どんな心を大切にすればいいんだろう」です。</p>	<p>「きまりを守る心」・「勇気を出す心」・「正しいことを堂々と言う心」・「一生懸命頑張る心」・・・</p>	<p>・今までの学習が想起できるように、前時までに使った「心」のハートマークを示して確認した。 ・事前アンケートの結果を知らせながら、「万引き」という言葉の意味の確認をした。 ・数値的なものを視覚的にとらえられるように円グラフを使いながら、群馬県の小学生の万引きの実態を説明した。(T2)</p>												
<p>(役割演技その1を行う) 万引きするのを誘われ、「まよっているくにおくん」の気持ちを考えよう。 (場面絵1を掲示)</p> <p>くにおくんはこのあとどうすると思いますか。</p>	<p>断る!絶対しない! 友達だと断りにくいな 見つかるとおこられるか 誰も見ていないからいいかな</p>	<p>・話し合いしたいことを焦点化するために、場面ごとに切ってT2, T3で役割演技を行った。 ・場面を想起しやすいように黒板に発問と関連する場面絵を掲示した。 ・自分の考えをはっきり持たせるために、全員に黒板にネームプレート^①を貼らせた。 ①「くにおくんがどうするか」を予想させることにより、くにおくに照らして子供たちの深層心理を引き出すことができた。 最初は「万引きする」派はほとんどいなかったが、けんすけの「平気だよ」「ひろこちゃんもやってたよ」「弱虫だな」「仲間はずれだよ」「遊ばないよ」等の台詞を場面絵1に掲示し、強調したことにより、「万引きしてしまう」派が徐々に増えていった。 ネームプレートの数は最終的には以下になった。</p>												
<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px;">万引きしてしまう</td> <td style="font-size: 2em;">↔</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px;">万引きしない</td> </tr> <tr> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px;">・弱虫と言われたから ・仲間はずれにされてしまう</td> <td></td> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px;">・悪いことだから ・つかまると怖いから</td> </tr> </table>		万引きしてしまう	↔	万引きしない	・弱虫と言われたから ・仲間はずれにされてしまう		・悪いことだから ・つかまると怖いから	<p>ネームプレートの数は最終的には以下になった。</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td>万引きしない</td> <td>14名</td> </tr> <tr> <td>万引きする</td> <td>9名</td> </tr> <tr> <td>どちらとも言えない</td> <td>15名</td> </tr> </table>	万引きしない	14名	万引きする	9名	どちらとも言えない	15名
万引きしてしまう	↔	万引きしない												
・弱虫と言われたから ・仲間はずれにされてしまう		・悪いことだから ・つかまると怖いから												
万引きしない	14名													
万引きする	9名													
どちらとも言えない	15名													
<p>(役割演技その2を行う) くにおくんはなぜ万引きをしまったのでしょうか。どんな気持ちでしょう。 (場面絵2を掲示)</p>	<p>カードが欲しかった。 友達に誘われて断れなかった。 こわい、いやな気持ち お母さんにばれたらどうしよう</p>	<p>・「心」のノート」の「かがやく自分になるう」や、「ルールブック」の44番・48番を見てきまりを守り正直に生活していく事が大切であることを確認した。</p>												
<p>(役割演技3を行う) 警察に呼ばれたお父さん・お母さんはどんな気持ちでしょう。 (場面絵3を掲示)</p> <p>この時のくにおくんはどんな気持ちでしょう。</p> <p>友達に万引きをさそわれたり、お店で欲しいものがあつたりしたとき、どんな心を大切にすればいいのでしょうか。</p>	<p>私の育て方がわかったのかしら 誰かに誘われたの? お店の人に謝りに行かなくては おとうさん、おかあさんごめんなさい 友達に誘われたとき、きちんと断ればよかった もう2度と、万引きなんかしない きまりを守る心・勇気を出す心・自分を大切に思う心・家族を大切に思う心・我慢をする心</p>	<p>親の気持ちを想像するのは難しいと予想していたが、予想に反し、子供からは多様な表現が出てきた。参観している保護者の方にも5名ほど親としての気持ちを語ってもらった。内容は子供の考えたこととほぼ同じだったが、実際の親の言葉は子供たちの心に強く響いたようである。</p> <p>友達の誘いを断れなかったくにおくに足りなかった心を問うことにより、大切に心に気づくことができた。</p>												
<p>警察の補導員さんのお話を聞きましょう。</p> <p>今日の勉強の感想を書きましょう。</p>	<p>万引きはすごく悪いことなんだ。 万引きなんか絶対しないぞ。 友達に誘われても断るし友達を止めてあげる。</p>	<p>・T2が専門的な立場から、万引きで捕まった小学生はどうなるのかを説明し、子供たちへの願いを語り聞かせた。 ・「心のノート」の「かがやく自分になるう」や、「ルールブック」の44番・48番を見てきまりを守り正直に生活していく事が大切であることを確認した。</p>												

2 第5時「意地悪は絶対許さない」(いじめ防止)の指導の流れと考察

(1)主題名	「意地悪は絶対許さない」(いじめ防止)	内容項目	4-(1)規則尊重・公德心
		関連項目	1-(4)正義・勇気
(2)資料	絵本「わたしのいもうと」松谷みよ子 作(偕成社)~実話をもとにした絵本		
(3)ねらい	小さな意地悪がもとで、人が死ぬこともあることを知り、差別はしない		

3 第6時「命を大切に」の指導の流れと考察

(1) 主題名 「命を大切に」 内容項目 3 - (2) 生命尊重
 関連項目 1 - (3) 勤勉・努力

(2) 資料 写真集「1945 JAPAN」より(写真)
 「電池が切れるまで」
 日本標準「みんなで考えるどうとく 3年」より
 「命」の詩と宮越由貴奈さんの写真(写真)

(3) ねらい 生きていることの意味を考え、自分の命も他の人の命も大切にして、一生懸命生きて行こうという心情を育てる。

(4) 準備 掲示用写真3枚 色々な心のハートマーク
 ワークシート プロジェクター
 子供達が頑張っている様子の写真数枚

お母さんが幸せそうに赤ちゃんをおんぶしている写真

写真 個人写真

写真 宮越由貴奈さんの写真

出典：「みんなで考えるどうとく3年 日本標準より」

宮越由貴奈さんがベッドの上で笑顔で座っている写真

著作権の関係で掲載できない

裸足の少年が死んだ赤ちゃんをおんぶして直立不動でいる写真

著作権の関係で掲載できない

↑

写真 出典：「1945 JAPAN」
 Joe O'Donnell 撮影 より

(5) 指導の流れ

発問・指示・説明	子供の反応	・支援・留意したこと 考察
今日は「生きている」ってどんなことを考えます。 生きているってどんなことですか？	幸せなこと・頑張れること・すごいこと・勉強したり遊んだりできること・とてもいいこと	「息をしている」「心臓が動いている」という単純な事ではなく、きちんと意味をとらえて考えられる子供が多く、驚いた。今までの学習の成果が出ていると感じた。
(写真 を掲示) 赤ちゃんをおんぶしている写真です。どんな感じがしますか。 (写真 を掲示) これも赤ちゃんをおんぶしている写真です。どんな感じがしますか。 どうして、幸せそうに見えないのでしょうか。 写真の説明をする。	うれしそう・楽しそう 幸せそう 幸せそうじゃない。 かわいそうな感じ。 裸足で立っている。 服がぼろぼろ。 何もなくて戦争中みたい。 男の子が怖い顔をしている。 気をつけをして立っている。 赤ちゃんがぐったりしている。 病気かな。	・写真 との違いを明確に対比できるように、幸せそうなおんぶの写真を掲示した。 ・2枚の写真を対比しての印象を明確にできるように、ワークシートに記入をさせた。 3年生には難しい内容かと思われるかもしれないが、国語「ちいちゃんのかげおくり」で戦争中の生活についてVTR等も使用し、よく理解をしていたため、戦争中の様子と容易に気づくことができた。 以下の話には子供たちはぐっとひきこまれていった。
<p>そうです。これは戦争が終わったすぐ後の日本の様子です。この赤ちゃんは死んでいます。この男の子は死んだ赤ちゃんをおんぶしても10分以上も「気をつけ」をして立っています。この子の目の前ではアメリカ兵がたくさん死体の処理をしています。その処理の様子を見ているのです。そして、赤ちゃんの死体を処理してもらおうのをじっと気をつけをして待っているのです。やっと順番が来て、アメリカ兵に赤ちゃんを渡すと、赤ちゃんは炎の中に投げ入れられ簡単に処理をされてしまいました。これが、終戦直後の日本です。 同じ日本に生まれたのに、生まれた時代によって、こんなにも違った生き方になってしまうんですね。</p>		
今度は「今の時代」の話です。 (写真 を掲示) この子はどこにいますのでしょうか。なぜバンダナをかぶっているのでしょうか。 (道徳副読本を使って、宮越由貴奈さ	自分の家のベッドの上 頭を手術する人が髪の毛を剃ってしまって、バンダナをするというのを聞いたことがある。	写真に強い衝撃を受け、命の重さを十分感じていたので、病気の子らしいという発言がすぐに出てきた。 どの子も道徳副読本に見入っていた。 由貴奈さんは「命」の詩を書いた4ヶ月

<p>んの説明をする。「命」の詩を読む【略】)</p> <p>宮越由貴奈さんは生きていたとしたら、みんなにどんなことを言うと思いますか。</p>	<p>命を大切にしてください 生きることは大切です。 勉強や運動も頑張って生きてね。 勉強ができるのは命のおかげなんだよ。 自殺なんか絶対だめ！ 精一杯に生きてね。</p>	<p>後に亡くなったと聞いて、非常に驚いていた。 ・自分の考えをはっきりと持たせるために、ワークシートに書く活動を取り入れた。(4分程度) 多くの子供が短い時間のうちに、宮越さんからのメッセージを想像してたくさん書き出していた。 ・気持ちを分かち合うために、数名に発表させた。(希望者)</p>
<p>今日、勉強した心は何でしょう。</p> <p>今までの勉強の感想を書きましょう。</p> <p>今よりもっと輝く自分になるために、美しい心を大切に生活していきましょう。</p>	<p>命を大切に 自分を大切に 一生懸命頑張る 勇気を出す 平和に暮らせることに感謝して一生懸命生きる 生きていることはすごいこと、みんなの命を大切にする。 いじめられている子がいたら勇気を出して助ける。</p>	<p>「勇気を出す心」という言葉が出たのはとても嬉しく感じた。勇気を出して生きていこうと感じてくれたということだろう。</p> <p>・今まで勉強した心を忘れずに、気持ちよく生活していこうとする心情を高められるように、子供たちが約束を守ったり、頑張ったりして輝いている様子の写真をスクリーンに提示して、終末とした。</p>

結果と考察

1 「ぐんまのこどものためのルールブック50」の活用について

朝の会のスピーチや、1日のめやすのルールを決める活動を通して、日記にルールブックについて書いてくる子供が多く(半数近く)いた。以下はその例である。

<p>ぼくはルールブック50を毎日音読していたら、ねごとで「思いやりを持ちましょう」と言っていたそうです。またルールブックの音読を自分で始めようと思います。</p>
<p>50のルールは全部大切だと思います・・・(中略)・・・もしみんなが守っていなかったら、わたしは自分から進んで注意をしたいと思います。みんなにルールを守ってほしいです。</p>
<p>わたしは50のルールについて考えました。わたしが1番がんばろうと思うのは39番と40番です。えがおであいさつをすると、相手が気持ちよくなるし・・・(中略)・・・ありがとうを言っても言われても心がホカホカするからです。</p>

この子供の他にも、ルールブックについての記述をした子供は通算では半数近くいる。また、ルールブックを音読するという課題について、連絡帳に以下のような記述をしてきた保護者がいた。

<p>ルールブックの音読の宿題、とてもいいですね。私もいつも一緒に読んでいます。どれもみな大切な事ばかりなのに、大人でもできていないことがあることに気づかされます。ひとつひとつ、できているかどうか親子で確認しながら読むようにしています。とてもいい本で、ありがたく思っています。</p>
--

この記述にあるように、大人でもできていない、忘れてしまっていることもある大切なことを気づかせてくれるルールブックは、保護者への啓発という点からも大変価値のあるものである。家族で話し合うきっかけにもなり、家庭教育からも子供の心を育てることができたと考える。

これらのことより、ルールブックの活用は、子供たちに正義・規律の精神を育てるのに大変有効であったと言える。

2 道徳プログラムの授業について

授業展開中の発問に対する子供の反応及び考察については「授業の実際」に記した通りである。ここでは、プログラムの最後の授業(第6時)終了後に子供たちが記述した感想や保護者の一言、及びその後に子供たちが日記に記述した文章について考察する。

下の資料1は「命を大切に」の授業におけるA子ワークシートである。左の「友達の命を大切にするとするのは」と「自分の命を大切にするのは」の欄は、一人一人に自由に考えさせ記入させた。難しくて記入できない子供がいるかと予想したが、全員の子供が自分なりの考えを書いてきた。A子のように、「友達の命を大切にすると=思いやりを持つ」「自分の命を大切にすると=一生懸命頑張って生きる」という事を感じている子供が多くいた。また、右の感想の欄には、「生きていることは大事なこと」「命を大切にすること」「いじめられたら親や先生に言って、じさつしたりしない」「いじめられている子がいたら、ゆう気を出して助ける」「悪い事をしている子がいたらゆう気を出してちゅういする」「平和にくらせることにかんしゃして一生けんめい生きる」「自分でできることは自分でがんばってやる。」等の記述があり、今までの道徳プログラムで学んだ内容が心に刻まれていることがわかる。保護者の一言の欄も、プログラムが進むにつれ、記述量が増えたり、内容が濃くなっていき、保護者の意識も高まってきているのを感じられた。

資料1 「命を大切に」の授業におけるA子のワークシート
 著作権の関係で、写真の部分は掲載できない。

また、各授業に対する感想には全員の子供たちが好意的な記述をしており、日記に道徳の授業についての記述をしてきた子供は、プログラム中を通算すると半数近くいた。以下はその日記の例である。

ぼくは道とくのべんきょうがすきです。先生がいるなたいせつなことをたくさん教えてくれるからです。がんばる心やゆうきを出す心やあきらめない心や、自分や友達を大切に。べんきょうしたことをこれからもわすれないでいたいと思います。

わたしは道とくのじゅぎょうが大すきです。道とくの間では、自分をみがいたり、命を大切にするといいいろいろべん強をしました。…(中略)…友達の命を大切にすることとはわたしが友達を守ったりすることです。50のルールにも道とくに出てくる心がありました。みんなでもっともっといい13の1にしていきたいです。

道とくで、さいしょ、かがやく自分になるうってどういうことかなって思ったけど、べん強したらわかりました。自分のことは自分でしたり、悪いことはちゅう意したり、いっしょうけんめいがんばるといことがわかりました。わたしもがんばってかがやきたいなど思いました。

子供たちの普段の生活態度を見ても、「」の1『正義・勇気の心』とは」に記述したような子供の姿が多く見られるようになっていく。以上のことから、本道徳プログラムは子供たちに正義・勇気の心を育てるのに有効であったと考えられる。

研究のまとめ

1 成果

「ぐんまの子どものためのルールブック 50」の活用は、正義・規律の精神や、その他の道徳的な価値を子供の心に育てるのに、大変有効であることがわかった。

プログラムを組んで道徳の授業を積み重ねていくことは、子供の心に道徳的価値を育てるのに有効であった。その際、子供の実態に合った、力のある心に響く資料を選定することが大切である。

今回、幾つかの授業を学年で行った。学級だけでなく学年で統一して同じ道徳プログラムを行うことにより、学級・学年の子供の心に、より確たる正義・勇気の心や規律の精神を育てることができたということが、学年の教員の感想からもわかった。

2 課題

昨今の社会状況から、今後も、正義や規律の精神の教育はますます必要になってくると思われる。今後もルールブック 50 を大いに活用し、自分で担当した学年に適した道徳プログラムを開発していきたい。

学年で道徳プログラムを行って有効だったので、学校全体で道徳プログラムを実践できる指導体制にしていきたい。

おわりに

毎年、子供の心をよりよく育てたいと思い、様々な道徳の授業を考え実践してきた。ここ数年は、年に1つはその学年に適した道徳プログラムを構想し、実践するようにしている。実践を行った時には、確かに、上記のように成果があったと手応えを感じることができる。しかし、これだけですぐに「子供の心に道徳的価値が根付いた」と満足してはいけないのは言うまでもないことである。実際、子供は忘れることが多いし、わかっているけどできないということがよくある。子供の心は年間を通じての学年・学級経営で育てていくもので、その一部として道徳の授業があると考ええる。だから、道徳教育の実践の真価が問われるのは、数年後の子供の姿であろうと考えている。

ただ、次の年度になり学級・学年が変わった後に、又は数年後に、保護者から「道徳の授業で教えてもらったことが…で良かった」等の感謝の言葉を頂いたり、数年後に子供から「道徳でやった…が」等の記述の手紙が届いたりすると、やはり実践したことは良かったのだと強く思うことができる。

「子供のことを思い、子供のためにと願って実践をすれば、必ず子供の心に響く」、そう信じて、今後も道徳教育の実践をしていきたい。